

令和7年度知立市防災会議 議事概要

1 日時及び場所

日時：令和8年2月12日（木） 午後3時00分～午後3時40分

場所：知立市役所 第2・3会議室

2 出席者及び欠席者

（出席者：23名（内オンライン参加者3名） 欠席者：1名 欠員：1名）

○出席者

石川 智子（知立市長）※会長

藤澤 智史（陸上自衛隊中部方面特科連隊第2大隊 大隊長）

※代理 第2大隊第5中隊長 児島 知則

高橋 秀直（愛知県知立建設事務所 所長）

近藤 良伸（愛知県衣浦東部保健所 所長）※オンライン

杉村 幸宏（愛知県安城警察署 署長）※代理 警部補 藤田 安洋

小森 和也（衣浦東部広域連合知立消防署 署長）

松永 直久（知立市副市長）

公文 保（知立市消防団 団長）

谷中 麻奈美（中部電力パワーグリッド株式会社刈谷営業所 所長）

※代理 総務グループ長 伊藤 宏

本多 裕治（NTT西日本株式会社東海支店 設備部長）※代理 原田 嘉昭

オンライン

小野 貴司（東邦ガスネットワーク株式会社地域計画部東部計画センター刈谷事業所 所長）

中村 隆（（一社）愛知県エルピ-ガス協会西三河支部三河中央分会知立地区 地区長）

宮本 史生（刈谷医師会知立支部 支部長）

藤井 則彦（愛知県西三河県民事務所 所長）

久田 邦博（知立市歯科医師会 会長）※代理 防災理事 加藤 寿太郎

近藤 ひろ子（名古屋市港防災センター）

鈴木 昭一（知立市自主防災会連絡協議会 会長）

高橋 敦子（知立市社会福祉協議会 会長）※オンライン

中川 敦（知立市商工会 理事）

内藤 瑤（特定非営利活動法人 愛知ネット）

田中 寛孝（あいち中央農協知立地区担当理事）

新美 徳洋（知立市薬剤師会 会長）

高木 一恵（防災ママかきつばた 代表）

○欠席者

宇野 成佳（知立市教育長）

（順不同・敬称略）

○事務局（危機管理局 安心安全課）

危機管理局長 篠原 源晴

安心安全課

課長 奥村 康明

防災係長 杉浦 奏太郎

防災係 主査 神谷 泰光

防災係 主事 中坊 莉子

3 議題

- ・令和7年度知立市地域防災計画の修正について
- ・令和7年度知立市水防計画の修正について

午後3時00分 開会

○会長（市長） あいさつ

- ・令和7年、国内では鹿児島県のトカラ列島並びに青森県東方沖、国外ではロシアのカムチ

ヤッカ半島などで大地震が発生した。

・市内では、9月5日の大雨の際に、避難所を2カ所開設した。また、河川の水位上昇に伴い、八橋保育園の園児を来迎寺保育園で受け入れ、知立保育園の園児が西児童センターに避難した。

・本日の防災会議の議題である「令和7年度知立市地域防災計画・水防計画」は、知立市の防災体制の根幹をなすものであり、防災計画は常に見直しを図り、市の状況に合わせて体制を強化していく必要がある。

○事務局（安心安全課長：奥村）

・委員の皆様のご紹介は、時間の都合上、名簿による紹介に替えた。

・知立市防災会議条例第3条の規定により会長は会務を総理することとなっているため、会長の市長に議事の取り回しを依頼した。

○会長（市長）

・「令和7年度知立市地域防災計画の修正について」事務局より説明を求める。

○事務局（安心安全課：中坊）

資料に基づき説明。

○会長（市長）

・委員に対し意見・質問などを求める。

○近藤ひろ子委員（名古屋市港防災センター）

・「車中避難を行うためのスペース」について修正しているが、知立市は2014年から車中避難に目を向けて、藤田屋と協定を結んでいる。同様の協定は増えたか。

該当箇所：地震災害編68、171ページ、風水害編49、138ページ

・「女性消防団員」について、女性団員の現状と、女性団員に対する配慮として、知立市はどのようなことに取り組んでいるか。

該当箇所：地震災害編26ページ、風水害編18ページ

・「すぐに逃げられる態勢の維持や非常持出品の常時携帯などの特別な備え等の防災対応をとる旨を呼びかけるものとする。」と修正しているが、常時携帯するという事は難しい。名古屋市は携帯用と非常持ち出し品と備蓄品と3分類してガイドなどに示している。今後ガイドブックを変更する場合に、このように加えてはどうか。

該当箇所：地震災害編226ページ

○事務局（安心安全課：神谷）

・藤田屋と協定を締結したのは平成26年7月。その後、同様の協定をホテルルートイン知立と平成27年2月に締結。また、社団法人全日本冠婚葬祭互助協会と平成19年2月に協定を締結していた。市内で対象となる事業所は、西町のイズモ葬祭と南新地の愛昇殿。

今後も協定について検討する際には、車中避難の視点も踏まえて検討したい。

・基本分団3人、機能別分団6名、合計9名。

女性消防団員がより活動しやすい環境づくりを進めている。消防団詰所のトイレの改修工事など設備の整備を進めていくとともに、防火服など装備品の充実を図り、女性でも不自由なく使用できる体制を整えていく。これらの取組を通じ、女性の入団促進と地域防災力の一層の向上を目指す。

・現在の防災ガイドブックでは非常持出品・非常備蓄品を提示している。次回の防災ガイドブック改正時にはこの点についても検討したい。

○会長（市長）

・「令和7年度知立市地域防災計画の修正」について、原案のとおり、修正することが承認された。

○会長（市長）

・「令和7年度知立市水防計画の修正について」事務局より説明を求める。

○事務局（安心安全課：中坊）

資料に基づき説明。

○会長（市長）

・委員に対し意見・質問などを求める。

・「令和7年度知立市水防計画の修正」については、原案のとおり、修正することが承認された。

・議題の審議を終了。

○事務局（安心安全課長：奥村）

・慎重審議に謝辞。

・「報告」事項について、事務局より説明。

○事務局（安心安全課：中坊）

・令和7年度中の災害対応について

知立市では大きな災害はなかったが、9月5日に発生した台風15号では午前7時に大雨警報が発令され、災害対策本部を設置した。避難所はスギ薬局知立福祉アリーナ、逢妻公民館で開設した。非常配備班、技術班をそれぞれ合計3班ずつ召集し対応した。特に大きな被害報告はなく、夕方6時半ごろ警報が解除され、対応を終えた。

・今年度整備した資機材等について

ラップ式トイレ、ガス発電機、LED投光器を各避難所と福祉避難所に配備した。

小中学校の受水槽に取付ける蛇口を各防災倉庫に配備した。

学校の体育館に空調設備が設置され、併せて太陽光発電と連動した蓄電池も設置された。

災害時の電力供給が可能になった。

同報無線の改修工事を実施して、デジタル化に移行した。デジタル化により、これまでより聞き取りやすくなる。

・令和7年度防災活動報告について（資料10）

令和7年5月25日に水防訓練を実施した。参加者は203名。土のう工法訓練、チェーンソー取り扱い訓練、ロープワークなどを行った。気象防災アドバイザー早川氏による職員向けの防災講義も実施した。また、早川氏には平時から気象分析の情報を提供していただき、風水害に備える体制の強化につながっている。

令和7年9月28日に総合防災訓練を実施した。市内の6小学校で訓練を実施した。メイン会場の西小学校では自主防災会を始めとする避難所運営訓練、陸上自衛隊による救助訓練、西小学校が医療救護所であることからトリアージ訓練も実施した。サブ会場の東小学校、その他の4小学校では、ラップ式トイレなどの資機材の取り扱い訓練も実施し、参加者は合計805名だった。

今年度、株式会社ホンダカーズ三河とプラス株式会社ジョイントテックスカンパニーと協定を締結した。協定により、電力供給、物資供給の確保につながり、災害時においても安定した対応につながると考えている。これまでの協定締結先との連携強化、新たな協定先との締結に向けても、積極的に取り組みたい。

○事務局（安心安全課長：奥村）

・「その他」として、委員に対し発言を求める。

○加藤寿太郎氏（知立市歯科医師会 防災理事（会長の代理出席））

令和7年9月28日、総合防災訓練に医療班として参加したが、西小学校の検査・診断の器具が足りない。小学校で行うには限界を感じた。愛知県歯科医師会では令和6年10月3日に公立能登総合病院の長谷剛志先生を招き、令和6年11月6日に熊本県有明保健所の服部希世子所長を招き、学校の救護所が機能していたか質問したが、共にあまり機能していなかったという答えだった。実際に現場を見たわけではないが、能登半島と熊本大地震を経験して最前線に立った先生がそのように答えていた。人的資源の配置はもう一度考えるべきではないかと個人的に思っている。

知立小学校で学習発表会があり、4年生が防災について発表していた。小学生の頃から教育することは自助、共助を考えると非常に有効だと思った。

○近藤ひろ子委員（名古屋市港防災センター）

知立市は15年くらい前から、新任教員の防災講座を毎年行っている。保育士などの防災講座も毎年行っている。「継続は力なり」であり、県下で毎年継続して行っている市町は私を知る限り一つもない。2020年から防災が小学校4年生の社会で必須になった。そのこともあり、児童は一生懸命に、また先生方もみんな考えさせるといような教育の中に防災を取り込んでいる。とても効果を上げていると思う。子供たちは頑張っている。保護者にもその発表を見ていただくことで、家族の防災力、地域の防災力が上がると思う。これからも頑張りたい。

○事務局（安心安全課：杉浦）

防災教育については、毎年必ず市の総合防災訓練で、メイン会場、サブ会場に参加していただく、災害時の力となりうる中学生に対して、5、6回の授業を重ねて、最終的にも総合防災訓練に参加していただく取り組みをしている。小学生も生涯学習出前講座で、申請のあったところに出向いて防災教育をしている。このようなことに積極的に取り組みたい。

○松永直久委員（知立市副市長）

今年の4月に機構改革を予定している。防災に関係するところでは、危機管理局安心安全

課から市民協働部部安心安全課になる。この思いは、自助共助が大事、共助力を高めたいというところにある。

○高木一恵委員（防災ママかきつばた 代表）

事前に意見書で、『「応急救護用医薬品、医療資機材等の備蓄に努める」（該当箇所：地震災害編 54 ページ）とあるが、現時点でどのようなものが備えられ、目標とされる数量に対して、現在何パーセントの備蓄量か。』と質問し、健康増進課から具体的な数値は示されなかったが、「3か所ある医療救護所には、注射薬、内服薬、外用薬、医療器具などを整備している」と回答があった。加藤先生のお話から実情としては足りていないことがわかった。先生と検討して、実際に足りる量を備えていただきたい。

この他にも事前に質問した内容に回答をいただいている。情報、データを示していただいた。このような情報を皆さんと共有できると良い。事前に質問した委員は他にもいると思うので、共有できると良い。個別避難計画の策定率に関して、他市町を調べると策定率が 20 パーセント以下という市町が多いが、知立市は 38.4%で今後一層上げていかなければならないが、他市町より努力している様子を確認できた。委員の事前質問があれば、会議の中で共有してほしいと思う。

○高橋秀直委員（愛知県知立建設事務所 所長）

発災した場合、まずは現状を把握する。その際、デジタルを活用している。知立市は被災状況をどのように把握しているのか。具体的に取り組んでいることがあればご教示いただきたい。

○事務局（安心安全課：杉浦）

システムに関しては、大きなシステムを市独自で構築してはいないが、令和 5 年度に IP 無線を配備した。IP 無線には位置情報サービスが付いているので、現地に行って写真などを撮影し、管理画面から状況を把握するということはある。システムとまではいかないが、位置情報サービスを活用しながら、災害情報の共有を図っている。

○高橋秀直委員（愛知県知立建設事務所 所長）

これは一般的に使用できるものか。

○事務局（安心安全課：杉浦）

防災行政無線ではなく、IP 無線です。

○高橋秀直委員（愛知県知立建設事務所 所長）

愛知県のシステムは連携するもの。愛知県だけが管理道路のここが壊れていると言うのではなく、くしの歯作戦、国道、県道、市道を繋げて、どの道路が繋がるか情報共有するもの。連携できれば連携したい。

○事務局（安心安全課：杉浦）

道路については、kintone というアプリを活用して道路状況の報告、市に一般の方から通報していただいたものを共有するサービスがある。災害時の IP 無線による報告もある。様々な情報を繋げていくことは非常に重要と考えている。

○事務局（安心安全課長：奥村）

・これをもちまして令和 7 年度知立市防災会議を終了します。

午後 3 時 40 分 閉会